

農業遺産で学ぶ
「米づくり学習」

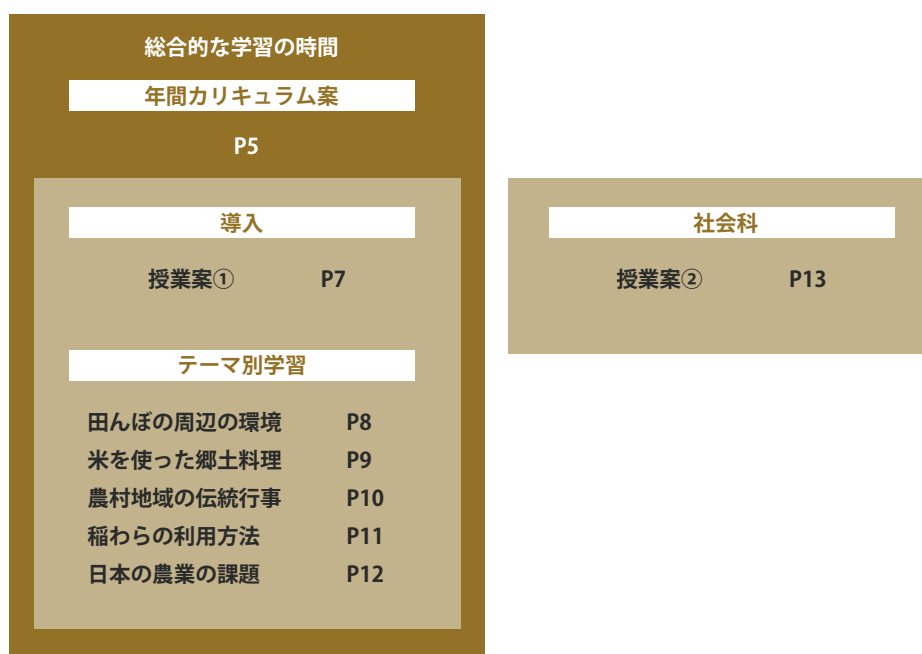


カリキュラム案・授業案
(指導者用)

目次

1	本冊子と動画の紹介	P3
	冊子の活用方法の紹介、農業遺産の紹介、動画の紹介	
2	年間カリキュラム案	P5
	小学校高学年（主に5年生）の総合的な学習の時間に米づくりを扱う場合、農業農村地域の魅力を学べる動画を用いたカリキュラム案を記載	
3	総合的な学習の時間〈課題の設定〉での授業案	P7
	小学校高学年（主に5年生）の総合的な学習の時間の指導案（米づくり学習の導入） 上記カリキュラム案の導入となる1・2時間目の授業について授業展開の案を記載	
4	総合的な学習の時間〈情報収集／整理・分析〉	P8
	各学校で重点を置きたいテーマに応じて学習を展開するための動機づけの導入例 上記カリキュラム案の3時間目以降の学習を展開していく例を記載	
5	社会科「米づくりに関する学習〈まとめ〉」の授業案	P13
	小学校5年生の社会科の指導案（米づくりに関する学習） 社会科の米づくり学習の単元内で、農業農村地域の魅力を学べる動画を使用した授業展開を記載	
6	農業遺産地域の取組や問い合わせについて	P16

本冊子の構成



1 | 本冊子と動画の紹介

本冊子の活用方法

本冊子は、小学校の教員の皆様が、授業で農業遺産等を扱いながら、農業に関する学習を深めることができるカリキュラム案と授業案をまとめたものです。地域や学校の特色に合わせて使える案を作成していますのでぜひご利用ください。

カリキュラム案・授業案の特徴

- ・米づくりの多様な側面を知り、農業の奥深さを学べる
- ・動画などの学習教材を取り入れた授業の流れがわかる
- ・農業遺産や資源循環型農業、SDGsの発展的内容につなげることができる

推奨学年／教科

- ・小学校4年生～6年生／総合的な学習の時間
- ・小学校5年生／社会科「米づくりに関する学習」

授業で使う学習教材の紹介



▶ 動画「ニッポンの農業遺産」(10分24秒)

風の妖精フーちゃんと一緒に日本各地の「農業遺産」を旅しながら学びます。農業遺産地域の伝統的農法とその意義を紹介し、環境や伝統・文化の面との関係性や、これからの環境と人にやさしい農林水産業のあり方を考えさせることをねらいとしています。

※動画に合わせた学習スライドもご利用いただけます



▶ 動画「のぞいてみよう！田んぼの世界」(10分16秒)

田んぼは、お米を作るだけでなく、さまざまな生き物の命を育んだり、水を貯めたり、その結果私たちの暮らしに欠かせない役割を果たしています。田んぼの魅力や生き物の生態、田んぼの機能を魅力的に紹介し、これから学ぶ農業の学習の動機づけになる動画教材です。



✎ 学習マンガ「ミーとトラの大冒険 日本の農業と伝統文化」

この学習マンガは、好奇心旺盛なネコの「トラ」がタイムスリップし、それぞれのシーンで出会う小鳥やカエルなどの生き物から、農業や農村の魅力を教えてもらうストーリーです。家庭用学習教材としても利用できます。

教材リンク：<https://www.nhk-ed.co.jp/business/kyozai/nougyou/n1/>



農業遺産とは

農業遺産は、社会や環境に適応しながら何世代にもわたり継承されてきた独自性のある伝統的な農林水産業と、それに密接に関わって育まれた文化、景観、生物多様性などが相互に関連して一体となった、世界的に又は我が国において重要な農林水産業システムを認定する制度です。現在、わが国において、国連食糧農業機関（FAO）が認定する世界農業遺産が15地域、農林水産大臣が認定する日本農業遺産が24地域存在しています。（令和6年2月現在）

農業遺産の魅力

農業遺産として認定された地域では、概ね100年以上もの間、脈々と受け継がれてきた伝統的な方法で農業・林業・漁業が営まれています。これらの伝統的な農林水産業は、地域の気候、地形、歴史的背景などに育まれて形成されたもので、独自性が高く、その地域固有の食文化や風土・景観を生み出しています。農業遺産に認定された農林水産業は、自然資源（土壌や森林、水産の資源）を枯渇させない資源循環システムを有しており、環境負荷が少ないため、日本固有の生き物を含む生物多様性の保全にも貢献しています。

農業遺産は、農林水産業の営みそのものであり、社会的、経済的、生態学的な変化に適応しながら進化を続けている「生きている遺産」です。

2 年間カリキュラム案

小学校4～6年生の総合的な学習の時間に米づくりを扱う場合、農業農村の魅力を学べる動画を導入で用い、授業を展開するカリキュラム案を記載しています。動画の内容と関連させながら各学校の特色を生かして授業を行うための参考としてご利用ください。実際の圃場での米づくり体験を行う学校での活用例を示しています。バケツ等を用いた稲の栽培等を行う学校では、適宜読み替えて活用ください。「農業遺産」の存在を知ることにより、郷土の環境や文化、景観を守り育みながら農業によって持続的に生計を営むことの大切さに気づくことが期待されます。

単元のねらい

- 米の育て方の工夫や米づくりの歴史、田んぼを取り巻く環境、郷土の文化やくらしとのつながり、農業が抱える課題等、自らが立てた学習テーマを探究的に調べ考える活動を通して理解することができる。（知識・理解）
- 学習テーマに対して、自分の考えをまとめたり、調べた内容や自分の考えを深めたりしながら適切に表現することができる。（思考・判断・表現）
- 米づくり体験や米づくりに関する教科学習を通して、学習テーマを主体的に調べ解決しようとするとともにこれからの米づくりのあり方を考えようとする態度を養う。（学びに向かう力・人間性等）

1年間のカリキュラムの流れ

	米づくり体験	総合的な学習の時間・各教科の学習の流れ
4～5月	しろかき 田植え 地元の農家の方に教わりながら、しろかきや田植えの体験を行う。  	総合的な学習の時間 < 課題の設定 > ※授業案の詳細はP7を参照 ・動画『のぞいてみよう！田んぼの世界』を視聴し、米づくり（苗植え、収穫）を行うことを予告する。 ・米や米づくりに関して、知っていることや調べてみたいこと、疑問について付箋紙等を使って意見を出し合う。 [予想される学習テーマ] ①米づくりの方法 ②田んぼの周辺環境 ③米を使った郷土料理 ④農村地域の伝統行事 ⑤稲わらの利用方法 ⑥日本の農業の課題 ・動画『ニッポンの農業遺産』を視聴することによって、さらに意見を広げていく。 ・学級の意見を集約しながら、総合的な学習の時間の中で取り組んでいく学習テーマを決めていく。
6～8月	稲を育てる 定期的に田んぼを訪れて、稲を観察し、成長記録をつけていく。 	総合的な学習の時間 < 情報収集／整理・分析 > 4～5月で決定したテーマをもとに学習を進める。 内容に応じて出張授業・校外学習と組み合わせてもよい。 ※取組事例・問い合わせ先はP16を参照 米づくりの方法 ・近隣の農家での体験学習や、米づくりに関する特徴的な取組に関する農業者による出張授業を行う。

6
～
8月



田んぼの周辺環境

※詳細はP8参照

- ・田植えの時に田んぼに水を入れたり、稲の刈入れの時には水を抜いたりする等、田んぼのつくりや水の流れを、実際に現地に行く等して調べる。
- ・田んぼに住む生き物にはどのようなものがあるかを実際に現地に行って観察学習を行う。

米を使った郷土料理

※詳細はP9参照

- ・米を使った郷土料理が地元にあるかどうかを調べ、実際にその料理を作ってみる。
- ・郷土の食材を使った米料理を考え、作ってみる。

農村地域の伝統行事

※詳細はP10参照

- ・身近な地域に米づくりに関連した伝統行事が現存しているか、また、過去に行われていたかを地元の農家や市役所の方々にインタビューしながら調べる。

稲わらの利用方法

※詳細はP11参照

- ・米を収穫した後の稲わらの利用方法について調べ、学校園で肥料として活用したり、稲わらを使って作品を制作したりする。

日本の農業の課題

※詳細はP12参照

- ・農業従事者の急速な高齢化や後継者不足、食料自給率の低下等、日本の農業が抱える課題について調べ、地元の農家の方々にこうした課題についてどのように向き合っているのかをインタビューしてまとめる。

9
～
12月

稲の刈入れ 脱穀

稲の刈入れや天日干し、脱穀等を行う。



総合的な学習の時間 <まとめ・表現>

収穫祭

- ・地元の農家等お世話になった方々を招いて、収穫した米で料理を作って振る舞う等、感謝の会を行う。

伝統行事の発表会

- ・地元の農業地域に残る伝統芸能（踊り・神輿等）を披露する。

学習発表会

- ・地元の農家や市役所の農業担当の方々等に向けて学習テーマについて調べた内容を発表する。

伝統工芸の制作・販売

- ・稲わらを使って工芸品を制作して、バザー等で販売する。

理科から総合的な学習の時間へ

- ・「植物の成長」の学習において学んだことを活かし、バケツやプランター等でよりよく稲が成長できるように日当たりや肥料等の条件を整えながら栽培していく。
- ・小学5年生までに学習したアサガオやヒマワリ、ツルレイシ等の植物と稲の栽培の相違点を考えながら、稲の生育において「なぜ常時水を張る必要があるのか」等の疑問を抱くようにし、稲作特有の栽培方法について調べる。

社会科から総合的な学習の時間へ

※授業案の詳細はP13を参照

- ・社会科の「米づくり」に関する学習で学んだことをもとに、地元の米づくりとの相違点を調べてまとめる。

3 総合的な学習の時間〈課題の設定〉での授業案

前記カリキュラム案の導入となる1・2時間目の授業における展開例を記載しています。動画を使用しながら米づくりについての興味関心を高める展開になっています。

授業のねらい

米づくり体験やお米をテーマにした学習への興味関心を高めるとともに、単元を通じて学習していくテーマを話し合いながら決めることができる。

授業展開（45分×2時間展開）

時間	学習活動	指導上の留意点
2分	4～11月の間で米づくりをすることを通して、自分たちが選んだお米に関する様々なテーマで学習を進めていくことを予告する。	- 米づくりをする場所や方法等を伝え、体験の見通しを持てるようにする。 - 単にお米を作って終わりではないことを強調し、お米を通して様々な学びを行うことを意識づけする。
3分	お米や米づくりについて学習テーマになりそうなことを簡単に発表する。 - 米の育て方を調べる。 - 米料理を調べる。	ここでは学習テーマについて多くの意見を求めず、いくつかテーマが出たところで、この他にテーマになりそうなことを動画視聴を通して見つめるよう導く。
15分	米づくりや田んぼに関する動画『のぞいてみよう！田んぼの世界』を視聴し、感想を発表する。（10:16） - 田んぼにはいろいろな役割があることがわかった。 - 実際に田んぼに行ってみたい。	- 動画を見ることにより、学習テーマが広げられるようにする。 - 動画『のぞいてみよう！田んぼの世界』 https://www.youtube.com/watch?v=CVyRjZ9o_gs
25分	米づくりや米に関することで「知りたいことや学習したいこと」「疑問」を個々に付箋紙に書き、グループ内で個々の意見を発表しながら、模造紙にテーマごとに付箋紙を貼ってまとめていく。	「知りたいことや学習したいこと」は黄色、「疑問」は水色というように色分けする。 - テーマごとに、以下の「予想される学習テーマ」のように分類していく。 - ICT活用を図る場合には、ホワイトボードツール等を活用するとよい。
15分	日本各地の米づくりには様々な取り組みがあること（「農業遺産」）を知らせ、動画（10:24）を視聴し、感想を発表する。 ※全編視聴ではなく、米づくりに関連するクリップ（リンク内にある2,3の動画）のみを視聴してもよい。 - 農業を営むだけでなく、生き物などの環境も大事にしている。 - 昔の人が何十年もかけて努力してきたことを今も受け継いでいる。	「農業遺産」とは「昔から続いている農業やその周りにある文化や環境、景観などを大切に、持続可能な農業を実践するための制度」（小学生向け説明） - 動画『ニッポンの農業遺産』 https://www.youtube.com/watch?v=7HCucnt-VMk - 動画『ニッポンの農業遺産』クリップ https://www.nhk-ed.co.jp/business/kyozai/nougyou/
10分	動画の内容を踏まえ、新たに「知りたいことや学習してみたいこと」「疑問」を付箋紙に書いて、模造紙に加えていく。	新たに出たテーマについては模造紙に追加していく。
20分	模造紙の内容を学級全体で共有し、米づくりを通して学習するテーマをまとめていく。	今回の学習テーマは固定ではなく、学習を進める中で新たな学習テーマが生まれる場合があることを伝えておくといよい。

予想される学習テーマ

- | | |
|----------------------|----------------------|
| ①米づくりの方法（アイガモ農法・陸稲等） | ②田んぼの周辺の環境（生き物・水・あぜ） |
| ③米を使った郷土料理 | ④農村地域の伝統芸能（祭り・神楽等） |
| ⑤稲わらの利用方法（飼料、わら細工等） | ⑥日本の農業の課題（食料自給率等） |

◎学校特有のテーマで行いたい場合には、以降の授業の中で共通テーマを決めて全体で取り組み、その他のテーマは個別に追究する方法も考えられる。

◎近くの農家から田んぼを借りることが難しい場合は、「JAグループが実施している「お米づくりに挑戦（やってみよう！バケツ稲づくり）」にて米づくり体験を行うことができる。
<https://life.ja-group.jp/education/bucket/>